



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

'96 7.30 No. 4440

防災訓練と団交(7/25)

七月二十五日、「九月一日防災訓練」に係わる団交が行われた。千葉支社は、七月一二日「九月一日、総合防災訓練を行う」としてしてきた。特に検修職場では、訓練当日は日曜日のため公休を変更し、勤務指定し「脱線復旧訓練」に当たらせるとしている。

五〇人を駆り出し脱線復旧訓練

この日の団交で千葉支社は、以下のとおりのことを明らかにした。

●訓練の概要

習志野電車区において、検修関係区(習志野、幕張(木更津支区を含む)、京葉)合同で、脱線復旧訓練及び搬送台車の着脱訓練を行う。

●訓練参加者について

訓練参加者については、技術管理室及び機動班を主体に検修区全体で概ね五〇名。
●検修各区の予定人数 □内は管理者数

習志野	二三	四ないし五
幕張	一三	二
京葉	一〇	三
木更津	五	二

●勤務指定

幕張は八月三十一日に公休を指定、九月二日又は、三日を特休とする。他区も同様に扱う予定。

(三一日特休、他日に公休扱いもある。)

●当日の勤務予定

九時に習志野電車区に集合(幕張電車区関係については、脱線復旧の器材をトラックに積込み、移動する。京葉電車区関係も搬送用台車をトラックに積み込んで行くので、いずれも出勤は八時頃。木更津は、九時に「接習志野電車区」。訓練は一時で終わる予定。幕電、京、区に戻るの勤務終了は、時三〇分頃。但し、器材、台車の片付けがあるので、なくなる人も出てくる可。

●具体的作業内容

●脱線復旧訓練
習志野電車区修繕二番線の千葉方で、No.一台車、午前中脱線させ、午後復旧させる。

担当は、習志野、京葉。

●搬送台車着脱訓練

午前中、搬送台車を組立、解体。午後搬送台車を組立、複雑した段階で搬送台車を取り付け、移動させ、転がり具合を見たらうで搬送台車を外す。

担当は、幕張、木更津。

以上のような内容である。

実のある訓練を実施せよ!

組 日曜公休の変更ということ

で、生活設計も含め、本人の了承をとったのか。予定があったらどう取り扱うのか。

当 本人には「防災訓練」があることを、現場で伝えるはず。その日出られないという事情

については、社会通念上仕方ないことは認める。

組 検修関係五〇名を集めて脱線復旧訓練ということである

が、訓練にかかれるのは、数名だけだ。

当 各区では脱線復旧訓練を年一回行っている。仮に脱線事故があつた場合、一三系は幕張の所属だから幕電全体に召集をかけられない。事故があつた場合は、周辺地域に召集をかけることになる。検修関係区全体が集まることに意義がある。

組 脱線復旧訓練をやってみれば解るが、チェーンブロックの巻き付け一つとっても、実際に扱わなければ解らない。訓練を経験し、実際の脱線復旧にあたる人がいなければ意味がないし、重要なのは指揮にあたる者がいるかどうかだ。「防災の日」だからといってリモコンとしてやっても無意味だ。

当 防災訓練は、総合防災訓練であり、検修だけではなく、工務、施設関係も同じ所で訓練にあたるので、意義がある。

組 脱線する箇所は、訓練のよ

うに平坦な場所ばかりではない。もっと実のある訓練を各区に計画させ、実施させるべきである。

訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

組 訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

治安出動を狙う「防災の日」

組 訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

組 訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

組 訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

組 訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

組 訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

組 訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

組 訓練を否定している訳ではない。実質上、異常時に対応する訓練が必要だ。

九月一日に政府・行政主導で行われる「防災の日」は、関東大震災の発生した日を名目して行われている。しかし、関東大震災の負の歴史として、亀戸事件に象徴される在日朝鮮人虐殺・社会主義者虐殺事件がある。

● 関東大震災を契機に大正デモクラシーがつぶされ、侵略戦争が掃き清められた歴史を想起しなければならぬ。

今日の防災の日は、こうした戦前の歴史を教訓化することなく「関東大震災に備える」ことのみが強調され、しかも自衛隊までが訓練に加わり、前面に立つてまさに治安弾圧に備えたものになっているのである。

● 阪神大震災は解決したのか!

阪神大震災から一年半が経過したにも関わらず、未だ四万世帯余りが仮設住宅での生活を強いられ、失業や賃下げという生活苦にある。

「仮設住宅を出る見通しが全く立たない」(九〇%)、「年収二〇〇万円以下」(五二%)、「一〇〇万円以下」(二九%)。

(本年五月兵庫県仮設住宅全戸調査)

神戸のケミカルシューズ業界では、震災前の平均月収二万四千元が現在一四万一千円と六五%ダウンしている。

阪神大震災の解決の方途すら示せず、「防災の日」だとしても絵に書いた餅だと言わざるを得ない。